

第12次鳥獣保護管理事業計画の実施状況及び第13次鳥獣保護管理事業計画（案）について

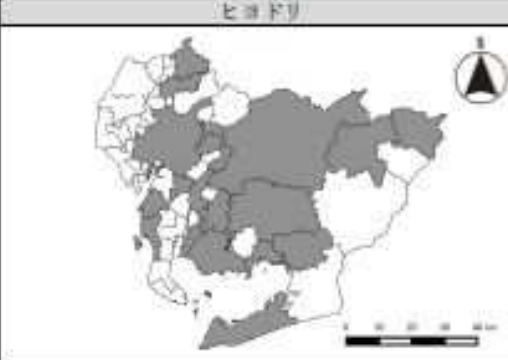

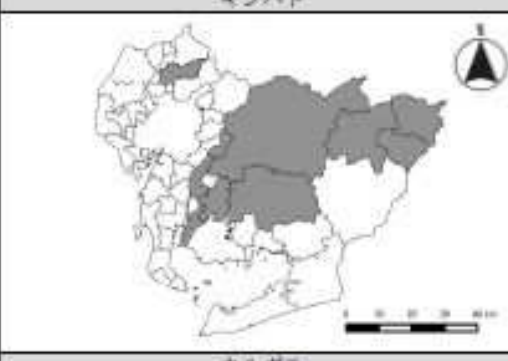


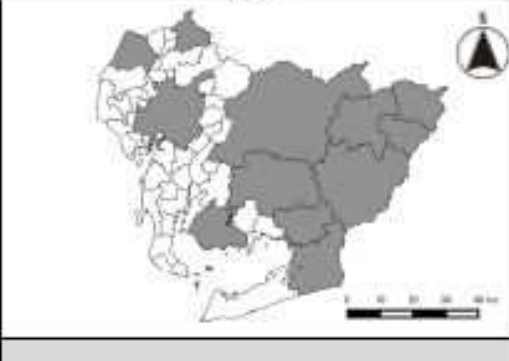

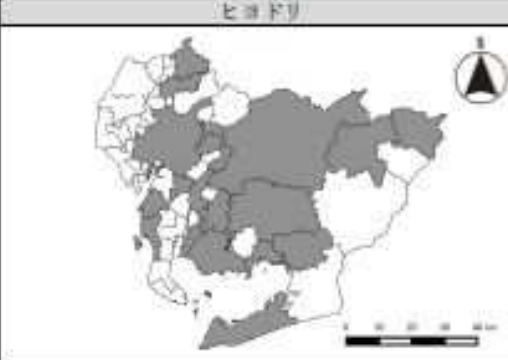

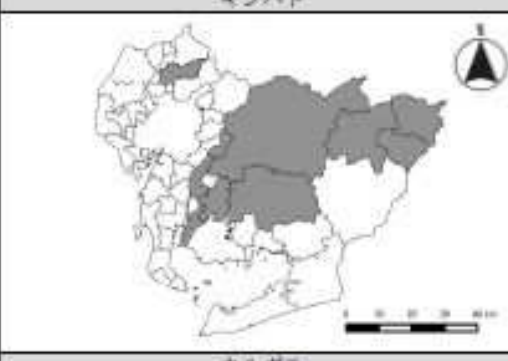


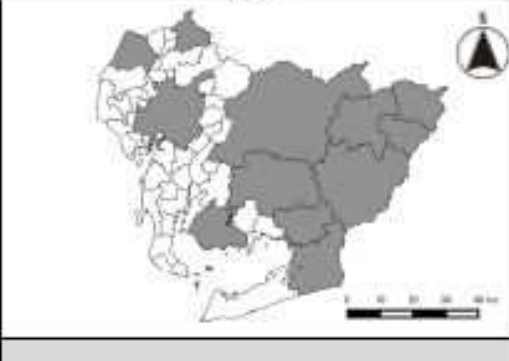



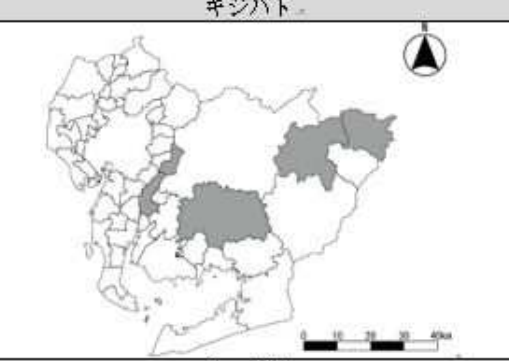
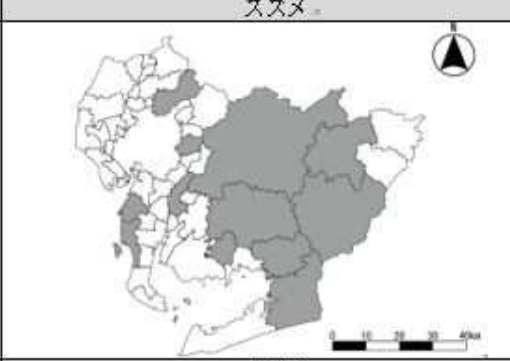
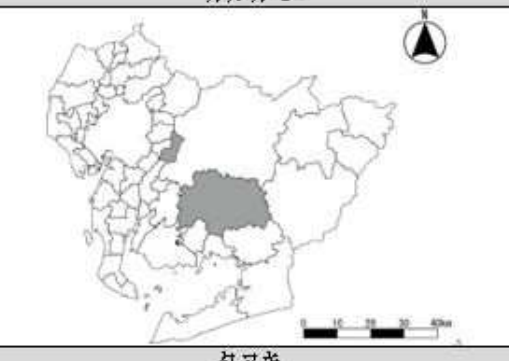
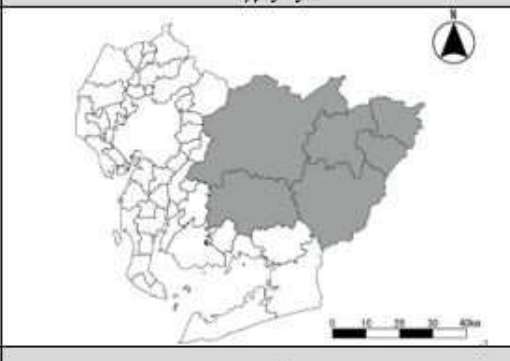
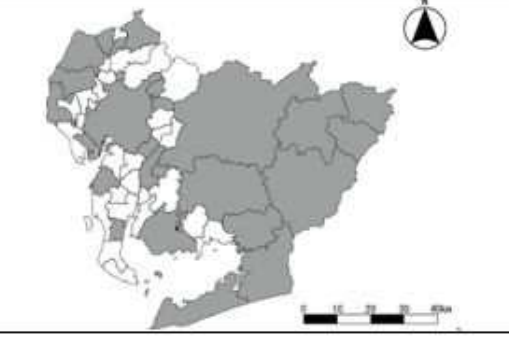


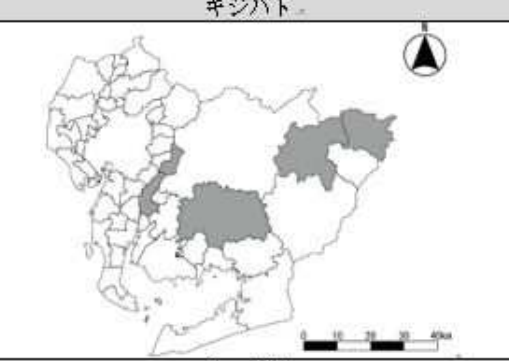
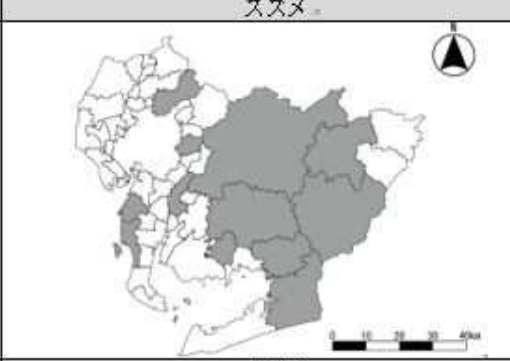
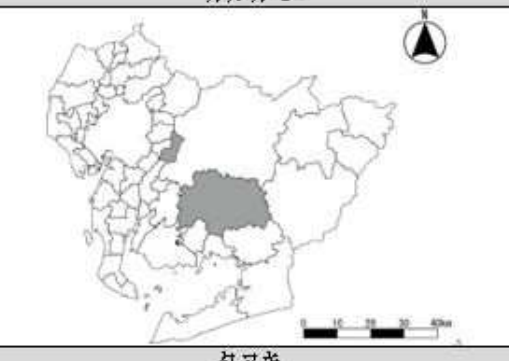
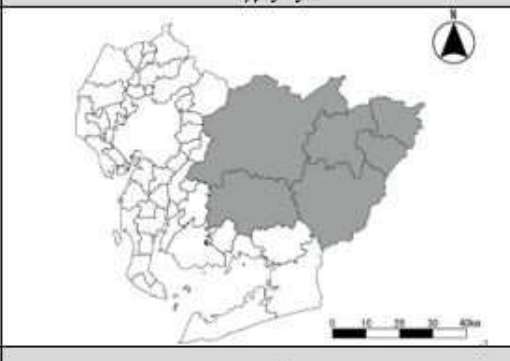
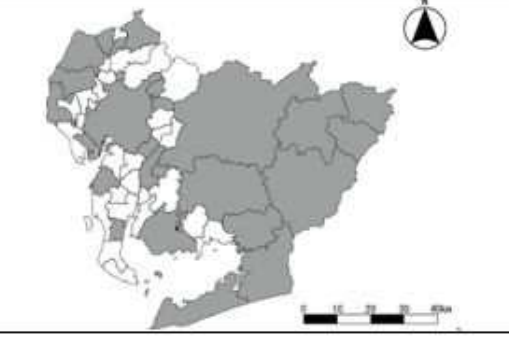
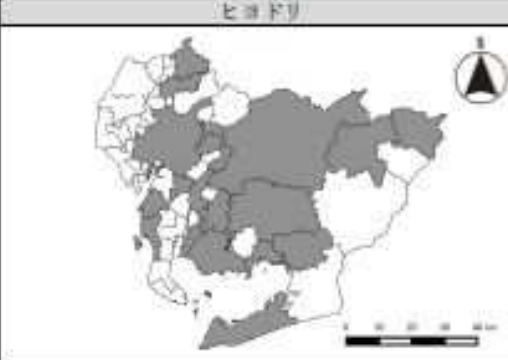

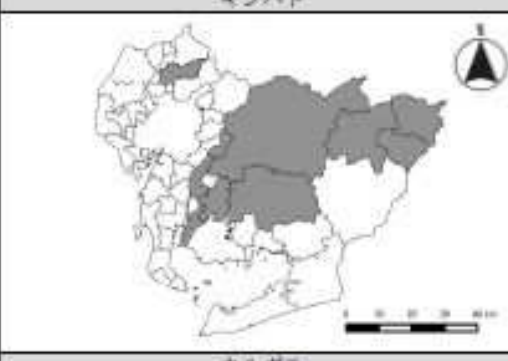


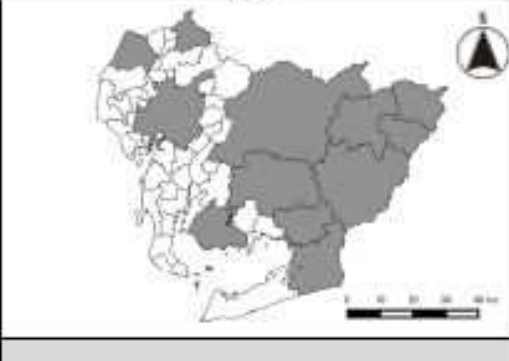



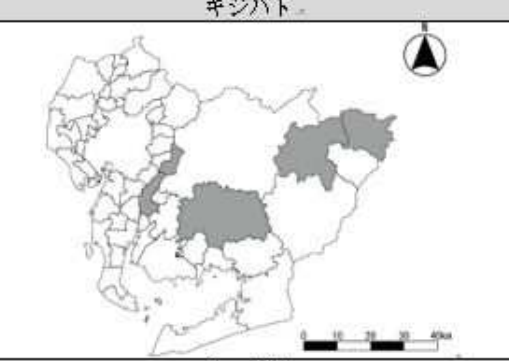
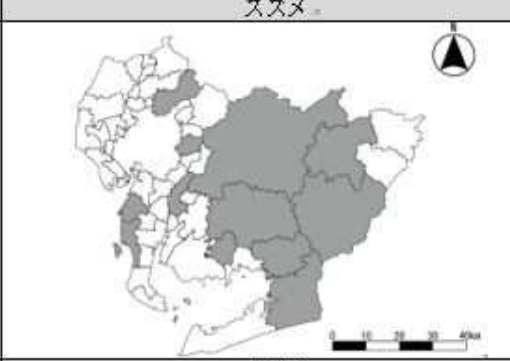
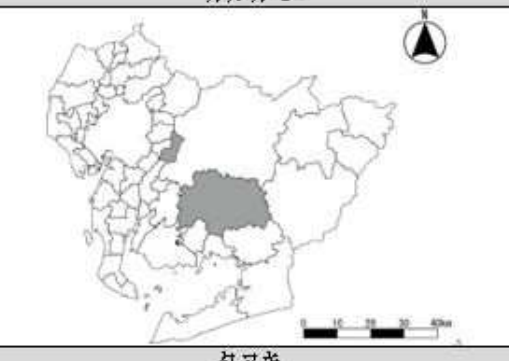
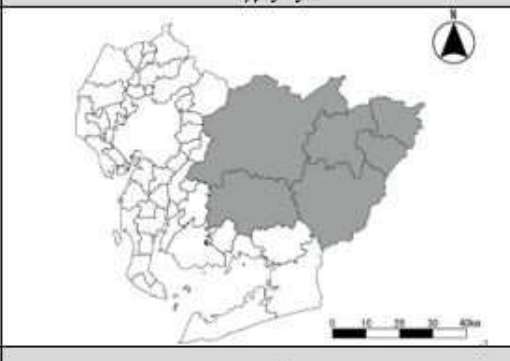
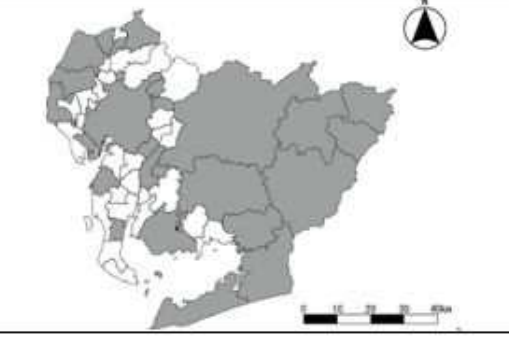
資料3

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第4条では、国の「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」（以下「基本指針」という。）に即し、県は鳥獣保護管理事業計画（以下「計画」という。）を策定することとなっている。現行計画である12次計画は、令和3年度末をもって期間満了となるため、県内の状況及び令和3年10月に改定された基本指針の内容を踏まえ、次期計画である13次計画を策定する。12次計画の概要と実施状況等、13次計画（案）の概要は以下のとおり。

		第12次鳥獣保護管理事業計画		第13次鳥獣保護管理事業計画（案）	
		概要	実施状況等	概要	* 主な変更箇所はゴシック
計画の期間		平成29（2017）年4月1日～令和4（2022）年3月31日		令和4（2022）年4月1日～令和9（2027）年3月31日	
鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区の指定等 <ul style="list-style-type: none"> ・新規の指定について検討する。 ・67箇所25,265haの鳥獣保護区のうち、計画期間中に期間満了を迎える40箇所14,933haを更新する。 ・4箇所439haの鳥獣保護区特別保護地区のうち、計画期間中に期間満了を迎える2箇所111haを更新する。 ・環境の変化が生じた際は随時見直しを行う。 ○休猟区 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて指定する。第二種特定鳥獣管理計画区域内は、原則シカとイノシシの狩猟を認める「特例休猟区」とする。 ○鳥獣保護区の整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・保護区の境界を明確にするための標識類の整備を行う。 ・鳥獣の観察に適する「弥富鳥獣保護区」「昭和の森鳥獣保護区」「大津谷鳥獣保護区」では観察路、観察舎の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区の指定等 <ul style="list-style-type: none"> ・新規の指定は実施しなかった。 ・計画期間中に期間満了となる40箇所の鳥獣保護区について、期間を更新し、引き続き鳥獣の保護を行った。 ・計画期間中に期間満了となる2箇所の鳥獣保護区特別保護地区について、期間を更新し、引き続き鳥獣の保護を行った。 ・岡崎鳥獣保護区は、岡崎市からの要望を受け、区域を縮小（6,450→670ha）した。 ○休猟区 <ul style="list-style-type: none"> ・稲武中部特例休猟区は、当該区域において鳥獣被害の防止を積極的に図る必要があるため、更新せず、廃止した。 ○鳥獣保護区の整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村等の要望を踏まえ、標識類の整備（更新、新規設置）を行った。 ・3つの保護区について、観察路、観察舎の整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣保護区、鳥獣保護区特別保護地区の指定等 <ul style="list-style-type: none"> ・新規の指定について検討する。 ・67箇所19,496haの鳥獣保護区のうち、計画期間中に期間満了を迎える27箇所10,332haを更新する。 ・4箇所の鳥獣保護区特別保護地区のうち、計画期間中に期間満了を迎える2箇所328haを更新する。 ・環境の変化が生じた際は随時見直しを行う。 ○休猟区 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて指定する。第二種特定鳥獣管理計画区域内は、原則シカとイノシシの狩猟を認める「特例休猟区」とする。 ○鳥獣保護区の整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・保護区の境界を明確にするための標識類の整備を行う。 ・鳥獣の観察に適する「弥富鳥獣保護区」「昭和の森鳥獣保護区」「大津谷鳥獣保護区」では観察路、観察舎の整備を行う。 	
放鳥獣に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> ・放鳥の可能性について検討する。 ・狩猟鳥獣である哺乳類の放鳥は、原則行わない。 ・外来鳥獣及び農林水産業に著しい被害を生じさせている鳥獣の放鳥獣は、原則行わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放鳥獣は、その必要性がなく、遺伝的攪乱防止の観点から実施しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟資源の増加を目的とした放鳥獣は、原則行わない。 ・外来鳥獣及び農林水産業に著しい被害を生じさせている鳥獣の放鳥獣は、原則行わない。 	
鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項	鳥獣の区分と保護及び管理の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・希少鳥獣…被害防除対策を優先し、人身被害等の特別な事由がない限り原則捕獲しない。 ・狩猟鳥獣…情報収集などを通じ、生活環境、農林水産業又は生態系にかかる被害状況の把握に努める。 ・外来鳥獣等…農林水産業又は生態系に係る被害を及ぼす外来鳥獣については、根絶又は抑制するための積極的な狩猟及び捕獲を推進する。 ・指定管理鳥獣…地域個体群の存続に配慮しつつ、可能な限り捕獲等を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、鳥獣の保護及び管理を行った。（令和元（2019）年度から指定管理鳥獣捕獲等事業を開始し、指定管理鳥獣（ニホンジカ、イノシシ）の捕獲を推進した） 	<ul style="list-style-type: none"> ・希少鳥獣…被害防除対策を優先し、人身被害等の特別な事由がない限り原則捕獲しない。 ・狩猟鳥獣…情報収集などを通じ、生活環境、農林水産業又は生態系にかかる被害状況の把握に努める。 ・外来鳥獣等…農林水産業又は生態系に係る被害を及ぼす外来鳥獣については、根絶又は抑制するための積極的な狩猟及び捕獲を推進する。 ・指定管理鳥獣…地域個体群の存続に配慮しつつ、可能な限り捕獲等を推進する。 	
	許可基準の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○許可基準 <ul style="list-style-type: none"> ・国の基本指針を踏まえ設定する。 ・常時捕獲を行い生息数の低下を図る必要がある種は「予察捕獲」の対象とする。 ○許可権限の市町村への事務委譲 <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟鳥獣48種及びアオサギ等11種について、管理の目的による捕獲許可の権限を委譲する。 ○その他（捕獲許可した者への指導等） <ul style="list-style-type: none"> ・適切な処理、危険の予防、錯誤捕獲の予防について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○許可基準 <ul style="list-style-type: none"> ・設定した許可基準に基づき、許可対象者に対し指導を行った。 ・主に市町村において、「予察捕獲」の対象種の捕獲を実施した。 ○許可権限の市町村への事務委譲 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市町村への事務移譲を行うとともに、必要に応じて許可基準に係る助言を行った。 ○その他（捕獲許可した者への指導等） <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき指導を行った。 ・クマやカモシカの錯誤捕獲及び放獣時の対応が問題となった。 ・県内で豚熱が発生し、捕獲後の防疫措置が必要となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○許可基準 <ul style="list-style-type: none"> ・国の基本指針を踏まえ設定する。 ・常時捕獲を行い生息数の低下を図る必要がある種は「予察捕獲」の対象とする（市町村の要望を踏まえ一部見直し（別表参照））。 ○許可権限の市町村への事務委譲 <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟鳥獣48種及びアオサギ等11種について、管理の目的による捕獲許可の権限を委譲する。 ○その他（捕獲許可した者への指導等） <ul style="list-style-type: none"> ・適切な処理、危険の予防、錯誤捕獲の予防・放獣に係る注意事項（特にクマ、カモシカ）及び防疫措置について指導する。 	
特定猟具使用禁止区域及び指定猟法使用禁止区域に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> ○特定猟具使用禁止区域 <ul style="list-style-type: none"> ・新規の指定について検討する。 ・133箇所216,335haの区域のうち、計画期間内に期間満了を迎える52箇所72,726haを更新する。 ○指定猟法使用禁止区域 <ul style="list-style-type: none"> ・矢作川河口部指定猟法禁止区域（鉛製散弾の使用）7,275haを継続指定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定猟具使用禁止区域 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の要望を踏まえ、3箇所5,885haを新規に指定した。 ・計画期間内に期間満了を迎える52箇所の区域について、期間更新を行った。 ○指定猟法使用禁止区域 <ul style="list-style-type: none"> ・矢作川河口部指定猟法禁止区域（鉛製散弾の使用）7,275haを継続指定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定猟具使用禁止区域 <ul style="list-style-type: none"> ・新規の指定について検討する。 ・136箇所223,920haのうち、計画期間内に期間満了を迎える82箇所146,881haを更新する。 ○指定猟法使用禁止区域 <ul style="list-style-type: none"> ・矢作川河口部指定猟法禁止区域（鉛製散弾の使用）7,275haを継続指定する。 	

	第12次鳥獣保護管理事業計画		第13次鳥獣保護管理事業計画（案）
	概要	実施状況等	概要 * 主な変更箇所はゴシック
第二種特定鳥獣管理計画の作成に関する事項 →特定計画に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○第二種特定鳥獣管理計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル及びカモシカについて第二種特定鳥獣管理計画を作成し、適切に運用する。 ・対象区域は原則分布する地域を包含するように定める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二種特定鳥獣管理計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル及びカモシカについて、第二種特定鳥獣管理計画を作成し、捕獲等の施策を実施した。 ・4獣による農業被害は減少しておらず、分布は拡大傾向にある。 ・捕獲の担い手は高齢化等により減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一種特定鳥獣保護計画 <ul style="list-style-type: none"> ・今後必要に応じて作成を検討する。（現在、策定の予定はない） ○第二種特定鳥獣管理計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル及びカモシカについて第二種特定鳥獣管理計画を作成し、適切に運用する。 ・対象区域は原則分布する地域を包含するように定める。ただし、イノシシは侵入の初期段階に迅速に対応するため、県内全域を対象区域とする。 ・原則数値による評価が可能な目標設定に努める。 ・計画の目標について、設定された指標によるモニタリングの実施により、課題の抽出や改善策の検討を行う。 ・人材の確保及び育成に取り組むほか、関係者の連携を強化する。
鳥獣の生息状況の調査に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣の生態に関する基礎的な調査 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類生息分布調査、ガンカモハクチョウ類一斉調査、狩猟鳥獣生息調査、第二種特定鳥獣生息状況調査を実施する。 ○法に基づく諸制度の運用状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・既指定鳥獣保護区において、定期的に調査を実施する。 ・捕獲者に対して法に基づく報告をさせるとともに、錯誤捕獲の実態についても可能な限り報告させる。 ○新たな技術の研究開発・普及 <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲や調査、被害防除対策に係る技術の開発・普及を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣の生態に関する基礎的な調査 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、各種調査を実施した。 ○法に基づく諸制度の運用状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3（2021）年度に、次の5年間で更新予定である既指定鳥獣保護区27箇所において、調査を実施した。 ・捕獲者に対して法に基づく報告をさせるとともに、収集した情報の整理分析を行った。 ○新たな技術の研究開発・普及 <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲や調査、被害防除対策に係る技術の開発・普及を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣の生態に関する基礎的な調査 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類生息分布調査、ガンカモハクチョウ類一斉調査、狩猟鳥獣生息調査、第二種特定鳥獣生息状況調査を実施する。調査結果は可能な限り、県民へのオープンデータ化を推進する。 ○法に基づく諸制度の運用状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・既指定鳥獣保護区において、定期的に調査を実施する。 ・捕獲者に対して法に基づく報告をさせるとともに、収集すべき情報を整理し、必要に応じて見直す。また、錯誤捕獲については、必要な情報を整理し、捕獲者からの情報収集に努める。 ○新たな技術の研究開発・普及 <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲や調査、被害防除対策に係るICT等の技術の開発・普及を進める。
鳥獣の保護管理事業の実施体制に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣行政職員・鳥獣保護管理員 <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体職員、鳥獣保護管理員に対し、必要な研修を実施する。 ○保護及び管理の担い手の育成及び確保 <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟者は年々減少しており、高齢化も進んでいるため、新たな狩猟者の育成に努める。 ○鳥獣保護センター等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・弥富野鳥園を鳥類保護センターに位置づけ、設置目的のための施設の充実に努める。 ○取締り <ul style="list-style-type: none"> ・迅速かつ適正な取締りを行うための方策等を講じる。 ○広域的及び地域的な連携 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣県との連携、地域的な連携を図り、鳥獣保護管理事業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣行政職員・鳥獣保護管理員 <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体職員、鳥獣保護管理員に対し、必要な研修を実施した。 ○保護及び管理の担い手の育成及び確保 <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟を魅力を伝えるセミナーや捕獲技術向上のための講習会の実施等により、新たな狩猟者の育成及び確保に努めた。 ○鳥獣保護センター等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・弥富野鳥園を鳥類保護センターに位置づけ、設置目的のための施設の充実に努めた。 ○取締り <ul style="list-style-type: none"> ・迅速かつ適正な取締りを行うための方策等を講じるとともに、鳥獣行政職員、鳥獣保護管理員による取締りを実施した。 ○広域的及び地域的な連携 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣県との連携、地域的な連携を図り、鳥獣保護管理事業を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣行政職員・鳥獣保護管理員 <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体職員、鳥獣保護管理員に対し、必要な研修を実施する。 ○保護及び管理の担い手の育成及び確保 <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟者は年々減少しており、高齢化も進んでいるため、新たな狩猟者の育成に努める。獣類の市街地出没に対応する人材の配置等を進める。 ○鳥獣保護センター等の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・弥富野鳥園を鳥類保護センターに位置づけ、設置目的のための施設の充実に努める。 ○取締り <ul style="list-style-type: none"> ・迅速かつ適正な取締りを行うための方策等を講じる。 ○広域的及び地域的な連携 <ul style="list-style-type: none"> ・近隣県、県民、関係団体等の多様な主体との連携、地域的な連携を図り、鳥獣保護管理事業を進める。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○傷病鳥獣救護への対応（鳥類の雛、外来種は保護は行わない） ○油等による汚染等に伴う水鳥の救護 ○感染症への対応（高病原性鳥インフルエンザ等） ○普及啓発（安易な餌付け防止等） ○環境学習の推進 ○広報活動の実施 ・計画に基づき事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、事業を行った。 ・感染症について、平成30（2018）年度に豚熱が発生し、県内の養豚業に大きな被害を与えた。また、国内へのアフリカ豚熱の侵入も懸念されるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○傷病鳥獣救護への対応（鳥類の雛、外来種、農林業等への被害が大きい種（カラス類）は保護は行わない） ○油等による汚染等に伴う水鳥の救護 ○感染症への対応（高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、アフリカ豚熱等） ○鳥類の鉛中毒の防止 ○普及啓発（安易な餌付け防止等） ○環境学習の推進 ○広報活動の実施 ・計画に基づき事業を実施する。

予察捕獲許可対象区域新旧対照表

第12次鳥獣保護管理事業計画	第13次鳥獣保護管理事業計画(案)																																
<p>ハシブトガラス、ハシボソガラスについては、県内全域を対象とする。</p>	<p>ハシブトガラス、ハシボソガラスについては、県内全域を対象とする。</p>																																
<p style="text-align: right;">(第2図)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">ヒヨドリ</td> <td style="text-align: center;">ムクドリ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">キジバト</td> <td style="text-align: center;">スズメ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">カルガモ</td> <td style="text-align: center;">カワウ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">タヌキ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	ヒヨドリ	ムクドリ			キジバト	スズメ			カルガモ	カワウ			タヌキ				<p style="text-align: right;">(第2図)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">ヒヨドリ</td> <td style="text-align: center;">ムクドリ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">キジバト</td> <td style="text-align: center;">スズメ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">カルガモ</td> <td style="text-align: center;">カワウ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">タヌキ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	ヒヨドリ	ムクドリ			キジバト	スズメ			カルガモ	カワウ			タヌキ			
ヒヨドリ	ムクドリ																																
																																	
キジバト	スズメ																																
																																	
カルガモ	カワウ																																
																																	
タヌキ																																	
																																	
ヒヨドリ	ムクドリ																																
																																	
キジバト	スズメ																																
																																	
カルガモ	カワウ																																
																																	
タヌキ																																	
																																	

・予察捕獲許可対象種ごとに追加・除外した市町村を下表に示す。

予察捕獲許可対象種	状況	市町村名
ハシボソガラス、 ハシブトガラス	追加	(変更なし)
	除外	(変更なし)
ヒヨドリ	追加	豊橋市、春日井市、新城市、南知多町、幸田町、東栄町
	除外	名古屋市、碧南市、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、小牧市、日進市
ムクドリ	追加	半田市、春日井市、豊川市、常滑市、新城市、知立市
	除外	名古屋市、一宮市、安城市、西尾市、小牧市
キジバト	追加	(変更なし)
	除外	碧南市、豊田市、安城市、小牧市、東栄町
スズメ	追加	豊橋市、春日井市、常滑市、幸田町、設楽町
	除外	名古屋市、一宮市、瀬戸市、安城市、小牧市、尾張旭市、みよし市、東栄町
カルガモ	追加	(変更なし)
	除外	刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、弥富市、飛島村
カワウ	追加	(変更なし)
	除外	名古屋市、一宮市、豊川市、西尾市、犬山市
タヌキ	追加	豊橋市、豊川市、刈谷市、西尾市、犬山市、江南市、新城市、知多市、長久手市、大口町、飛島村、武豊町
	除外	安城市、みよし市、東郷町